# さんぱち

ボーイスカウト京都第38団 BS 隊機関誌

平成23年3月1日発行　第228号


春季野営

## 「京都原人」

来月の隊集会は毎年恒例「春季野営」を行います。
今年の春キャンはいつもと違う!?
星の動きを観察して方角を知り、暗闇の道を切り開きながら進む。
…そう。今回はナイトハイク（夜間ハイク）です。

スカウトは、夜でも昼と同じように道を見つけることが出来なければいけません。そして良く練習をしておかないと、夜は道に迷ってしまいます。距離は遠く感じられるし、目標の地物は見えにくくなります。したがって、夜間は目よりも耳を頼りにしなければなりません。また嗅覚も助けになります。日頃から視覚以外の感覚も使う練習をしておきましょう。

コンパスを使わずに方向を知る方法はいくつかあります。星座によって北を見つけることもその一つです。
北極星には指北星という二つの星があります。これらの星は、北すなわち北極星を指しています。北極星は小熊座の尾の先の星です。すべての星（星座）は夜空を回っていますが、北極星は北に止まって動きません。

北斗七星の二つの星は、北極星を指している。



2月隊集会

## 雪中ハイク

2月隊集会は雪中ハイク。スタート地点のニノ瀬駅では殆ど雪は積もっていませんでしたが、山に入っていくにつれて周りの景色も一変。一面雪化粧…というよりは厚化粧という表現がピッタリ。みんな雪中ハイクを満喫しました。滝谷峠では雪の重みであちこち北山杉が倒れて道が塞がり、道なき道を進みました。まさにスカウティング！

雪中ハイクを満喫！？

倒木が行く手を阻みます

みんなで集合写真

## 全国女子駅伝奉仕

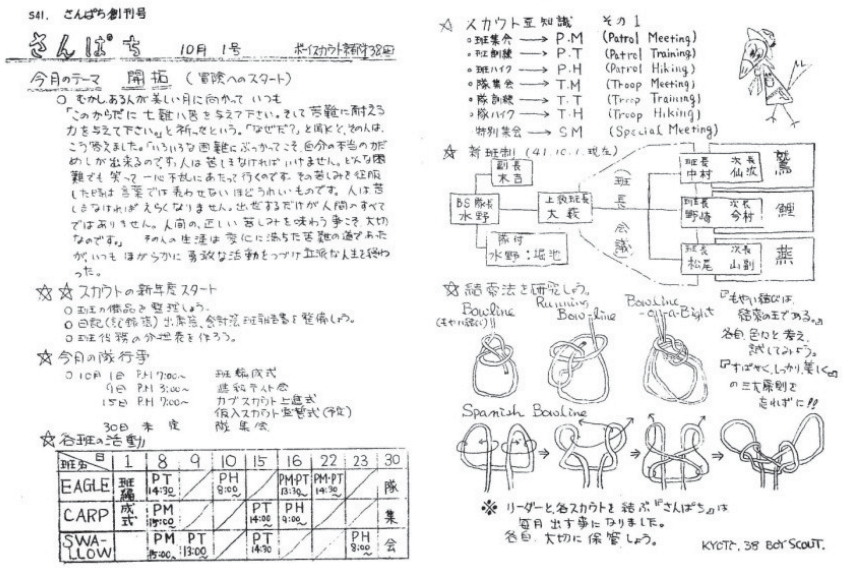
恒例の全国女子駅伝の沿道整理奉仕を行いました。さんぱちからはBS隊をはじめCS隊、VS隊からスカウト・リーダーが集まりました。例年以上の寒さの中、半袖姿で元気なスカウト活動をアピールすることができました。駅伝の結果も2年ぶりに京都が優勝するなど、寒い中頑張った甲斐がありました。

# 情熱特急 －この情熱、君へ届け－

「さんぱち」創刊号は当時の水野隊長と末吉副長によって生み出されました。今回は末吉副長に創刊当時のお話を紹介していただきました。

今月で、228号を数える「さんぱち」というBS隊の機関誌は、昭和41年（1966年）10月に創刊しました。この年、ザ・ビートルズが来日。38団では、38団で育ったスカウトがリーダーに任命され、ようやく自前の隊長が生まれました（それまでは、大谷大学ローバースカウトの方々にお世話になっていました）。また「新年の集い」を始めた年でもありました。

当初の「さんぱち」は、今のようなカラーコピーとは程遠く、ガリ版印刷といってロウを染み込ませた繊維の強い原紙を、細かな鉄のヤスリの板の上に置き、鉄のペンでひっかいて細かな穴をあけ、その上からインキの付いたローラーを転がらせて、穴から染み出たインクを、下の紙に写し取るという、何枚も同じものを刷るために、なんとも原始的な印刷方法で作り、配っていたのです。ヤスリの板に鉄筆で書くときに出るガリガリという音から、ガリ版印刷と呼んでいました。




「さんぱち」創刊号。紙面の「班長中村」は今の中村団委員長ことです。



団創始者の、小川玄諦先生は、このガリ版の達人で、キャンプの栞などは、赤の入った2色刷り、しっかりと鉄筆を保持しないと、ヤスリの目に負けてしまうのですが、先生の筆裁きは見事で、図柄の挿入も丁寧に書かれていました。新米リーダーの作品は、御覧の通り、ぎこちなく、ところどころかすれて読みにくいものでしたが、スカウトは苦にせず読んでくれたようです。

現在、記述する手段もワープロですし、印刷もカラーコピーで、それも両面ページ仕様で仕上がるという当時では考えられない進歩の仕方をしています。ただ、当時のスカウトは、読みにくくても、しっかりと内容を把握していたように思います。立派な紙面になっても、良く読まないのなら、残念ながら、もったいないと言わざるを得ません。情報をさらっと流すのではなく、自分の中に確実に取り組む姿勢を失わないでほしいと思います。

ペンネーム　応　間休

応　間休記

## 本部からの連絡事項

### 班集会の議題

◆1泊ハイクに必要な装備を班で確認しよう。
◆ソング「あるけ」の練習をする。
◆コンパスを使わずに方角を知る方法を調べる。

### 今後の予定

3月　12日（土）～13日（日）
　　春季野営
　　出町柳駅
4月　24日（日）　4月隊集会
　　時間・場所未定
5月　29日（日）　5月隊集会
　　「北星地区BSラリー」

＊訂正：226号にて川田くんのちかいの式を11月27日としておりましたが、正しくは11月28日です。